



引揚復元棧橋



引き揚げと舞鶴港

昭和20年(1945)第二次世界大戦の終結にともない、当時海外に残された日本人は660万人以上ともいわれ、これらの方々をすみやかに帰国させなければならなくなりました。これを「引き揚げ」といいます。

舞鶴港は、政府が指定した引揚港の一つとして、昭和20年10月7日第一船の入港から、昭和33年(1958)9月7日の最終船まで、実に13年間の長きにわたり、その使命を果たしました。昭和25年以降は唯一の引揚港として、「引き揚げのまち・舞鶴」の名を全国に広めました。

舞鶴引揚記念館は、いろいろな方々のご支援で、昭和63年(1988)4月に開館し、年々遠ざかりつつある戦争や「引き揚げ」の史実を語り継ぎ、「平和の尊さ、平和の祈り」のメッセージを発信しつづけています。

今後とも、多くの人々の心に、その輪が広がることを念願するものです。



交通アクセス

入館のご案内

- 開館時間 午前9時～午後5時まで
(最終入館は4時30分までです。)
- 休館日 年末年始(12月29日～1月3日)
毎月第3木曜日(8月と祝日を除く)
- 入館料

区分	個人	団体(20名以上)
大人	300円	200円
学生(小学～大学) 市内在住、在学者は無料	150円	100円
- 共通券 一般個人 400円 学生個人 200円
(共通券は、引揚記念館・赤れんが博物館にご入館いただけます。)
- 割引制度 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方は、受付でご呈示ください。入館料が半額になります。

舞鶴引揚記念館 IN 赤れんがパーク

〒625-0080 京都府舞鶴市字北吸1039
赤れんがパーク3号棟2階
TEL.0773-68-0836 FAX.0773-68-0370

15.250.000

ユネスコ世界記憶遺産

登録候補資料所蔵

舞鶴引揚記念館

IN 赤れんがパーク

永久の平和へ願いをこめて



舞鶴引揚記念館改修整備(休館中)のため常設展を
赤れんがパーク3号棟(国重要文化財)で開設しています。

リニューアルオープン
平成27年10月初旬予定!!

辛く悲しい抑留生活と引き揚げ

舞鶴では、主として旧ソ連邦(現ロシア共和国)、中国などの大陸からの引揚者を迎え入れました。13年間に66万4,531人の引揚者と1万6,269柱の遺骨を受け入れました。終戦時、大陸に残された軍人、軍属などの日本人およそ57万人がソ連へ送られ、その内の約47万2千人がシベリア各地のほか、コーカサス、北極圏等の収容所で、長い年月辛い抑留生活を強いられました。

また、現地の港を目指し、襲撃や略奪の恐怖におびえながら逃避行を余儀なくされた民間人も多くいました。



手作りのスプーン

佐藤清氏
◀「オーイ倒れるぞ 伐採」
▼「深夜の点呼」



俘虜郵便葉書
(シベリアから留守家族へ出した葉書)



森田孝次氏「沈む夕陽と特急あじあ号」

※画像は展示資料のイメージです。

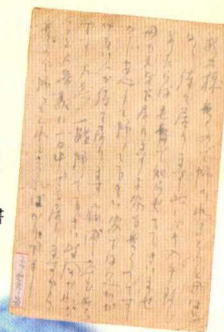
夢にまで見た祖国へ帰る

舞鶴では、引揚船が入港するたびに市民こぞって引き揚げて来られた方々を心から歓迎し、慰問し、勇気づけました。舞鶴港での引き揚げの様子、肉親との再会そして、いまだ帰らぬ我が子・夫を待つ婦人の姿がいつしか「岸壁の母・妻」といわれ、歌や映画になり、人々の涙をさそいました。

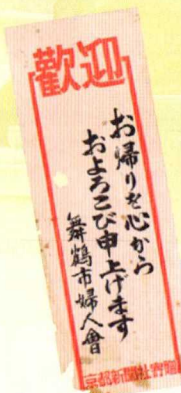


再会のまち舞鶴

「岸壁の母」が
息子にあてた葉書



北見けんいち氏
「はじめて見た日本は緑いっぱいの国だった」



市をあげて歓迎

ユネスコ世界記憶遺産登録を目指して

戦後70年近くたち、引き揚げの史実も徐々に風化しつつあります。引き揚げのまち舞鶴として、歴史を過去のものとして、次世代へ継承し平和の尊さを一人でも多くの方に発信するため、舞鶴引揚記念館収蔵資料の世界記憶遺産登録への取り組みを進め、平成26年(2014)6月に、国内候補に選定されました。

海外引き揚げ70周年の節目となる平成27年(2015)での登録を目指しています。

登録候補資料(一部)



白樺日誌

白樺の皮に和歌などで綴った抑留の記録

シベリア抑留中の日々の様子や心情を、文章や和歌などの歌でつづった日誌。白樺の皮をはいてノートにし、ペンは空き缶の先をとがらせ、煙突のすすを水に溶いてインク代わりにした手作りのもの。



スケッチブック

シベリアで描かれた抑留の風景

抑留中にソ連側からメーデーの様子を描くよう指示があり受け取ったスケッチブックの残りに、収容所の様子などを描いた。抑留中に労働の様子や収容所の様子を描いた記録画としては非常に珍しいもの。

常設展で候補資料の詳細なデータをご覧いただけます

— 世界記憶遺産とは —

世界的に極めて重要で希少性の高い記憶遺産の保護と振興を目的としたユネスコの(国連教育科学文化機関)の制度です。文書や絵画などの記録史料が対象。世界では「アンネフランクの日記」など300件(内日本は3件)が登録されています。

